決定機を逃す伊藤
（撮影:藤原菜摘）

４月２０日 11：30 駒澤大学オリンピック公園総合運動場

駒大	0 (0-0) (0-0)	1東国大

得点者（ｱｼｽﾄ）

〔東〕５３分小玉（高橋）

KOMAZAWA	TOKYOKOKUSAI
GK①大石健太(4)	GK㉑今野太祐(3)
DF㉛鈴木啓晃(1)	DF②伊東駿多(4)
DF④平尾優頼(3)	DF③阿部正紀(4)
DF⑤伊東槙人(3)	DF⑤川島將(4)
DF③田中雄一(4)	DF⑥鹿糠啓正(4)
MF⑥若山瞭太(4)	MF⑮ 加藤龍治(3)
MF⑧碓井鉄平(4)	M⑩若井祥吾 (3)
MF⑰平野篤志(2)	MF㉖佐伯拓磨(2)
(59 分キム・デセン(1))	MF⑪高橋明嗣(4)
MF⑪小牧成亙(3)	FW⑰小玉敏之 (3)
FW⑨小牟田洋佑(3)	FW㉓赤崎俊太(2)
(70 分糸井康裕(4)	(90＋2 分岸卓弥(3))
FW⑨山本大貴(4)	
S U B	S U B
GK㉒積田景介(2)	GK①上平優二郎(3)
DF⑯柳川剛輝 (2)	DF㉖鈴木涼太(2)
DF㉖嶋谷昇大(2)	DF㉙斉藤健太(2)
MF㉕立石忠之(2)	MF⑧ 清水亮平(4)
MF㉞小玉卓也(1)	MF⑦佐藤領(3)
	FW㉜阿部雄介(2)
MANAGER 秋田浩一	MANAGER

[シュート]2:12 [GK]9:10 [CK] 7:4 [直接 FK]11:16
[間接 FK]3:26[主審]國吉真吾 [観衆]240 人

警告(C)／退場(S)

[駒]37 分伊東槙人(C)	[東]18 分小玉敏之(C)
	[東]55 分加藤龍二(C)
	[東] 64 分佐伯拓磨(C)
※データの左側が駒大	[東]79 分伊東駿多(C)

今季初黒星

ともに開幕２連勝しているチーム同士の対戦。シンプルに前へ運ぶ駒大と、ポゼッションサッカーを主体とする東国大の戦いとなった。

試合は前半から東国大のペースで進む。東国大の激しいプレスとパスワークに翻弄されなかなかシュートまで持ち込めない状況が続いてしまう。「前回の相手と違って今回の相手は前から積極的にプレスをかけてきたので受け身になってしまった」（碓井）、「立ち上がりが悪くて、相手の圧力に焦ってしまった。」（大石）と話したように、なかなか駒大のペースに持ち込めない。しかし３４分、平野のシュート制のクロスから山本が触りゴールネットを揺らす。これはオフサイドの判定で得点にはならない。前半は少ないチャンスを生かせず、守備に回る回数が多い前半となった。

後半開始直後の５３分。東国大に右サイドからグラウンダーのクロスを上げられ、フリーで待ち構えていた選手にシュートで押し込まれ、先制を許してしまう。なんとか追いつきたい駒大は 59 分キム、70 分には糸井を投入させ、悪い流れを変えようとする。大きく流れを変えることは出来なかったが、「去年は２点３点取られていたのを耐えられたので少しは進歩した」と試合後に秋田監督が語るように冷静さを保ち失点を抑えた。試合終盤にはセットプレーから平尾、伊藤が高さからゴールを狙うが、合わせられない。88 分、小牧とキムのパス交換から最後はフリーになった小牧がシュート。これは惜しくもわずかにゴール右へそれてしまう。後半幾度ものチャンスをものに出来なかった駒大は１点を返せず試合を終えた。三連勝を狙った駒大だったが今季初黒星、「気持ちの面で負けていた」と秋田監督は指摘した。山本は試合後、「試合に勝っているときも毎回失点はしている。だから、もっとプレスをかけて後ろの人達をフォローしたい。ゴールも決めたい」と語った。この敗戦を糧に次節の関学戦でまた駒大らしいサッカーを見せてほしい。（山本佑輔）